

Expedition

片岡賢祐

アラスカに行きたい！でかい事がしたい！3年前、そう思ってこの部の扉を叩いた。この思いこそ探検の根源だ。

フィールドで様々なアプローチから自分にとって大きく未知なことに挑戦する。これが我が部の活動内容だと私は認識している。他と違い、我が部は大会や試合といった予め決まっている明確な目標がない。

我々の活動は自由に自ら目標を立て、行っていく。自分のやりたい事をとことんできるのだ。

合宿の時期が来たからとりあえず合宿をたてる。これでは折角の4年間がもったいない。先輩、OBの意見なんて関係ない。本当に自分が何をしたいかである。主張し、先輩、OBの壁を突き破ることも我が部では重要なことである。

また、近年純粋な探検活動をする場が減ってきている。そういった中で我々の活動も同じことの繰り返しばかりでマンネリ化しているのが現状である。私は今まで4年間で国内の様々な所へ行き、海外遠征も行った。

しかし、これらは本当に探検活動であろうか？

本当の探検とは未踏地調査など、知られていないものを調査することだと思う。そのような意味で、登山、カヌーが本当の探検とは思わない。

今の我々の活動は果たして何なのか？

私は探検のようなものだと思う。「自分にとって新しいこと、挑戦的なこと＝探検」である。この考えで行けば、山岳部もワンゲルも探検である。

本当の探検ができなくなった今、我々は探検うんぬんを別にして、もっと純粋に山、海、川などの自分の好きなフィールドに取り組んで行けばよいのではないかと私は思う。

今後もこの部が入部者の未知の世界を開ききっかけであり続けるよう願う。

(49代/4回生)

今回、特別に早稲田大学探検部
幹事長 光永さんから寄稿を
いただきました。

探検部とは

光永奏者

早稲田大学探検部の現状

現役探検部員18名。そのうち1, 2回生が12名。

今の早大探検部は力に漲っている！だが、エネルギーの向けどころに皆とまどう。今年度は早大探検部にとっては「冬眠」そして「成長」の時期と考えています。

近年の遠征

07年3月 イリアンジャヤ 新種生

物探索 (ニューギニア島)

06年9月 マダガスカル 人跡未踏谷 遡行 (マダガスカル)

06年9月 チェルノブイリ探訪 (ウクライナ)

05年9月 アンデス山脈 人跡未踏谷 遡行 (ボリビア)

05年9月 ジプシー民族調査 (ルーマニア)

05年3月 大蛇プロジェクト (ボルネオ島)

普通なら出来ないことや、行けないところに行きたい。海外での活動为目标とする早稲田大学探検部の「海外遠征」とは、それは「旅行者には踏み入ることの出来ない領域」にある。

そのため訓練を重ね、そのトレーニングがなければ行えない活動を行う。今は贅沢な時代で、行きたいところならばどこでも行ける。

その分、現地での活動に向けた下準備に力を注げる。

(52期 早大3年)

OBとのつながり

OB会を通じて、OBとはわりと強いつながりを保っています。代の近いOBとは活動も一緒にすることが多いです。OB会主催する月一の二木会に現役は足を運び、遠征計画に関するアドバイス、説教を頂きながら美味しい料理をご馳走になります。



早大探検部マダガスカル人跡未踏谷遡行

「探検部」とは

半世紀前の探検と今の探検とは全く別なものかもしれない。

未知の土地が多かったころでは、遠地にたどり着くことが探検になった。今ではそんなの旅行でしかない。

自分の行った遠征に対してバックパッカーに「それ私も行きましたよ」なんて言われたら、悔しいじゃないか。先輩は以前そう言った。

まさにそうだ。